

巣を乗っ取る幻のハチ
チャイロスズメバチ



ハチ目スズメバチ科
体長30mm(女王バチ)
夏～秋



社会寄生性で女王バチはキイロスズメバチなどの営巣初期の巣に侵入、創設女王バチを殺して乗っ取る。黒い腹部が特徴で強毒をもつ。幻のスズメバチと称される希少種。1984年にキャンパスで巣が発見され、学会で話題に。

Vespa dybowskii

子どもたちの人気者
カブトムシ



コウチュウ目コガネムシ科
体長30～55mm(オス・角を除く)、
30～50mm(メス)
夏



里山の代表的な昆虫のひとつ。オスの頭部と胸部に角があり、クワガタムシと並んで子どもたちに根強い人気を誇る。幼虫は腐葉土の中で育ち、キャンパスでは、夏になると農場エリアの雑木林でよく見られる。コナラやクヌギが出す樹液に集まる。

Trypoxylus dichotomus

チョウ目セセリチョウ科
開長45～55mm
春～夏



セセリチョウ科のチョウは全体に姿がカにも見え、地味なものが多いが、アオバセセリは緑色の翅、オレンジ色の後翅の縁で目立っている。平地や山地の林に生息しており、年に2回、春と夏に発生する。

ひときわ派手なチョウ
アオバセセリ



Chaospes benjaminii

生息域が北上中
クマゼミ



カメムシ目セミ科
体長60～70mm
夏



大型のセミで、真っ黒な体と透明な翅をもつ。「シャシャシャ……」と大きな声で鳴く。従来は関西以西で見られたが、近年は生息域が北上していると言われており、東京都内でも観察されている。温暖化との関係が指摘する声もある。

Cryptotympana facialis

擬態で捕食者をあざむく
アゲハモドキ



チョウ目
アゲハモドキガ科
開長55～60mm
春～夏



一見チョウのようながで、擬態の事例として知られる。強烈な赤色の胴体などが特徴で、有毒のチョウ、ジャコウアゲハに似る。自らは毒をもたず、捕食者となる鳥類をあざむく。基本的に昼行性で野原や雑木林を飛ぶが、夜間に街灯の明かりに飛来することもある。

Epicopeia hainesii



白い斑紋が特徴
ゴマダラ
カミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科
体長25～35mm
夏



在来種で日本全国に生息している。森林や雑木林のほか、市街地でも見られる。光沢のある濃紺の体に、白い斑紋が散らばった模様の特徴で、カミキリムシ科の中でも大型に属する。触角が長く、オスの場合、体長の2倍にもなる。幼虫はミカンなどの樹皮を食べるため、柑橘類の害虫としての一面もある。

Anoplophora malasiaca

豊かな毛で花粉を媒介
トラマルハナバチ



ハチ目ミツバチ科
体長20～25mm
(女王バチ)
春～秋



在来種で、日本全国で観察される、重要な花粉媒介者。名前はトラに似た腹部の鮮やかな模様にちなむ。オレンジ色の毛が胸部と腹部の一部を覆う。長い口吻を伸ばして花蜜を吸う。活動期間が長く、キャンパスで春～秋に咲く花々の受粉に活躍する。

Bombus diversus



自然は
学校は

(玉川の仲間たち)
希少種から人気者まで
昆虫

小野正人教授監修・写真提供

たそがれどきに飛ぶ
カトリヤンマ



トンボ目ヤンマ科
体長70～75mm
夏～秋



大きな複眼を備え、腹部はびくびくしている。近くに木々のある水辺、池のまわりに生息する。日中は休息し、日が暮れる頃に活動して、カなどの小型の昆虫を捕食する。近年減少傾向にあるが、学内では農場やピオープ周辺で目撃されている。

Gynacantha japonica

コオロギとキリギリスの中間の姿
コロギス



バッタ目コロギス科
体長30～40mm
夏



コオロギとキリギリスの中間的な見た目であるものの、翅をこすり合わせて鳴くことはない。鋭い大顎を使って小型の昆虫を貪欲に捕食し、樹液も吸う。夜行性で、日中は自ら吐く糸で巣をつづった中に潜む。

Protopogryllacris japonica